

につせい農事にゆーす

(第435回)

日星コーポレーション株式会社

アグロ部 (054-263-2860)

病虫害防除所の3月予報によると、茶では赤焼病、カンザワハダニがやや多、トマトでは灰色かび病、葉かび病・すすかび病、コナジラミ類が多、いちごではアザミウマ類、アブラムシ類がやや多、の情報が出ています。

3月の天候は平年に比べ晴れの日が多く、平均気温は平年より高い予想です。特に3月の前半は気温がかなり高くなる可能性があります。降水量は平年並又は少ない予想です。3月は越冬していた病虫害が気温の急激な上昇とともに一斉に発生してくることが懸念されます。発生の予防に努めるとともに、発生を確認したら早めに防除をしましょう。

今月の技術情報は令和4年の農業気象と病虫害の発生状況を掲載しました。令和4年の月平均気温は、3～11月は平年より高かった一方、1、2月、12月の冬の時期は平年より低かった。令和3年は1年を通してほぼ平年並の気温でしたが、令和4年はまた平年より高い気温に戻りました。年間降水量は平年に比べ27%多く、特に7～9月は台風の影響もあり、平年の2倍近い降水量がありました。なお台風は15号が9月下旬に本県に接近し各地に大きな被害を及ぼしました。

病虫害の発生は、水稻では7～9月に雨が多かったためか、8月に葉いもちの発生が多かった。令和2年に発生の多かったトビイロウンカは少なかった。茶では二番茶、三番茶の生育時期(5～8月)に掛けて炭疽病、もち病の発生が平年を上回った。害虫では7、8月にヨモギエダシャクの発生がやや多かった。温州ミカンではミカンハダニが6～8月と11月に平年より多かった。トマトでは、葉かび・すすかび病が冬場に、コナジラミ類が栽培期間を通して多かった。イチゴはアブラムシやアザミウマなど生活サイクルの早い害虫が収穫時期に発生が多く、炭疽病が育苗期に多く見られた。キャベツ、シロネギ、ダイコン等露地作物では、秋に害虫の発生が多かった。

令和5年2月21日

気象予報 '23-3

東海地方3か月気象予報

名古屋地方気象台

この期間の平均気温は、高い確率が50%です。

月別の予報

- 3月：天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。気温は、平年並または高い確率ともに40%です。
- 4月：天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。気温は、平年並または高い確率ともに40%です。
- 5月：天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

予報の 区分	気温			降水量		
	低い	平年並	高い	少ない	平年並	多い
3か月	20%	30%	50%	30%	40%	30%
3月	20%	40%	40%	30%	40%	30%
4月	20%	40%	40%	30%	40%	30%
5月	20%	40%	40%	30%	40%	30%

病害虫発生予察情報(3月予報)

令和 5年 2月 22日
静岡県病害虫防除所長

1 予報概況

作物名	病害虫名	予報 (3月の県平均平年値)	予報の根拠
茶	赤焼病	発生量 やや多 (発病葉数0.1枚/1.25㎡)	2月上中旬発生量:並 (±) 気象予報:気温:高い (+) 降水量:ほぼ平年並(±)
	カンザワハダニ	発生量 やや多 (摘採面寄生葉率1.0%)	2月上中旬発生量:並 (±) 気象予報:気温:高い (+) 降水量:ほぼ平年並(±)
トマト	灰色かび病	発生量 多 (発病株率8.9%)	2月中旬発生量:多 (+) 気象予報:気温:高い (+) 降水量:ほぼ平年並(±)
	葉かび病・ すすかび病	発生量 多 (発病株率6.2%)	2月中旬発生量:やや多 (+) 気象予報:気温:高い (+) 降水量:ほぼ平年並(±)
	黄化葉巻病 (タバコナジラミ)	黄化葉巻病発生量:やや少 (発病株率2.4%) コナジラミ類発生量 多 (寄生株率6.5%)	2月中旬発生量 黄化葉巻病 :少(-) コナジラミ類 :多(+) 気象予報:気温:高い (+)
たまねぎ	腐敗病	発生量:並 (発病株率4.8%)	2月上旬発生量:やや少 (-) 気象予報:気温:高い (+) 降水量:ほぼ平年並(±)
	灰色腐敗病	発生量:並 (発病株率0.0%)	2月上旬発生量:並(発生なし)(-) 気象予報:気温:高い (+) 降水量:ほぼ平年並(±)
	ネギアザミウマ	発生量:やや少 (寄生株率38.1%)	2月上旬発生量:少 (-) 気象予報:気温:高い (+) 降水量:ほぼ平年並(±)
いちご	灰色かび病	発生量:やや少 (発病株率2.4%)	2月中旬発生量:少 (-) 気象予報:気温:高い (+) 降水量:ほぼ平年並(±)
	うどんこ病	発生量:やや少 (発病株率1.1%)	2月中旬発生量:少 (-) 気象予報:気温:高い (+)
	炭疽病	発生量:並 (発病株率1.1%)	2月中旬発生量:やや少 (-) 気象予報:気温:高い (+)
	アザミウマ類	発生量 やや多 (寄生株率 11.9%)	2月中旬発生量:並 (±) 気象予報:気温:高い (+)
	ハダニ類	発生量:並 (寄生株率 13.8%)	2月中旬発生量:やや少 (-) 気象予報:気温:高い (+)
	アブラムシ類	発生量 やや多 (寄生株率2.2%)	2月中旬発生量:並 (±) (甚発生ほ場を除く) 気象予報:気温:高い (+)

令和4年の農業気象と病害虫の発生状況

1. 気象の経過（静岡市駿河区曲金）

- 1) 気温：平均気温は3～9月と11月が平年（過去30年）に比べ0.2～1.9℃高かったが、それ以外の月は平年より低かった。日最高気温、日最低気温の平均値も平均気温とはほぼ同様の傾向であった。2021年の気温はほぼ平年並であったが、2022年はまた平年より高い傾向となった。
- 2) 降水量：年間降水量は2967mmで平年比127%、前年比118%であった。4、5、7～9、10月、が平年より多かった。年間の降水日数は190日で4～6月が19日、7～9月が20日以上と多かったが、ほぼ平年並であった。
- 3) 日照時間：年間日照時間は2240時間で平年比104%であった。4、8月が平年に比べ日照時間が少なかった。
- 4) その他：台風は25号まで発生したが、9月下旬の台風15号は、大雨により、県内各地に洪水被害をもたらした。

これらのデータから見ると、令和4年の気温は冬（1,2,12月）以外は平年より高い傾向にあった。年間降水量は平年より多く、特に7～9月が多かった。一方、日照時間はほぼ平年であった。

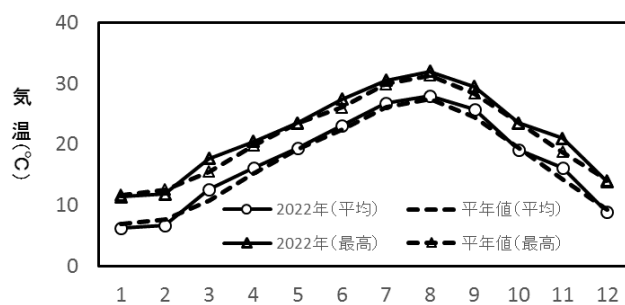


図 2022年 月別平均気温

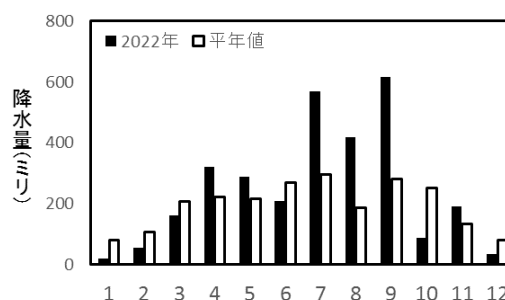


図 2022年 月別合計降水量

2. 病害虫の発生状況

1) 新発生病害虫（特殊報）

- ・アリモドキゾウムシ かんしょ（令和4年11月2日発表）

2) 注意報

- ・発表なし

3) 技術情報

- ・小麦 赤かび病（令和4年4月28日発表）
- ・かんしょ アリモドキゾウムシ(令和4年12月2日発表)

4) 2022年（令和4年）の病害虫の発生

水稲では、7、8月に葉いもち病の発生が多かったが、穂いもち病は少なかった。茶では、炭疽病、もち病が5～8月にかけて発生が多かった。またヨモギエダシヤクが7～8月に発生が多かった。温州みかんでは6～8月にハダニの発生がやや多かった。野菜では、トマト（施設）で1～3月に葉かび・すすかび病の発生が、9～3月までコナジラミ類の発生が多かった。その他の露地の秋冬野菜では、10～11月の生育初期に、アブラムシ類やチョウ目害虫の発生が多かった。（作物ごとの多発生病害虫が次の一覧表を参照）

* 令和4年(2022年) 発生が平年に比べ多かった病害虫

作物名	病害虫	月 (●:多発生 ▲:やや多発生 ■:一部で多発生)											
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
水稲	葉いもち							●	●				
	ごま葉枯病							●					
	稲こうじ病							▲					
	斑点米カメムシ類					▲			●				
茶	炭疽病					●		▲	●				
	もち病					●	●						
	輪斑病						▲						
	赤焼病	■											
	チャノコカクモンハマキ				●								
	チャノドリヒメヨコバイ						●						
	チャノホソガ								●				
	ヨモギエダシヤク							▲	▲				
	カンザワハダニ				▲								
	クワシロカイガラムシ				●								
温州みかん	黒点病								●				
	ミカンハダニ						▲	▲	▲			●	
中晩柑類	かいよう病							●					
トマト	葉かび・すすかび病	●	●	●									
	黄化葉巻病									●	■		
	ハモグリバエ類												●
	コナジラミ類	●	●	●						●	●	●	●
イチゴ	炭疽病								●	▲			
	アブラムシ類		▲	●									●
	アザミウマ類		●	●									●
	ハダニ類												▲
バレイショ	アブラムシ類				●								
カンショ	ナカジロシタバ						●						
ダイズ	べと病									▲			
	ハスモンヨトウ								●				
シロネギ	シロイチモジヨトウ								●				
	ネギハモグリバエ										●	●	
ダイコン	アブラムシ類									●		●	
タマネギ	ネギアザミウマ	●											
キャベツ	菌核病												▲
	コナガ											●	
	オオタバコガ										●	●	
	タマナギンウワバ											●	
	アブラムシ類										●	●	
キウフルーツ	かいよう病						●						
果樹全般	カメムシ類			■		■			■				
作物全般	オオタバコガ							●	●	▲	▲		

* 病害虫防除所の発表する予察情報をもとに作成した

今月の防除(令和5年3月)

作物	時期	使用薬剤	使用薬剤	使用法	使用基準	備考
チャ	上～下 (萌芽前)	赤焼病・もち病 カンザワハダニ及び チャトゲコナジラミ	フジドーLフロアブル又は クプロシールド ダニゲッターフロアブル	500倍 1,000倍 2,000倍	14日― 摘採前日― 7日-1	赤焼病は幼木園で出やすい。気孔感染もするので葉裏に薬液を十分散布する。ダニゲッターはチャノガサビダニにも有効である。低密度時から防除する。
カンキツ (中晩柑)	上～下	カイガラムシ類及び ミカンハダニ	ハーベストオイル	60倍	――	
	下	かいよう病	コサイド3000 又は フジドーLフロアブル	1,000倍 500倍	発芽前― ――	オイルとの近接散布は効果が減退するので1週間程度間隔を置く。
ハウス ミカン	上	灰色かび病	スイッチ顆粒水和剤又は ストロビートライフロアブル	2,000倍 2,000倍	7日-3 14日-3	満開期から落弁初期に散布する。
	中～下	ミカンハダニ アブラムシ類	コロマイト水和剤 ダントツ水溶剤	2,000倍 2,000倍	7日-2 前日-3	常温煙霧での使用も可能。 コルト顆粒水和剤4000倍(前日-3)も可。
イチゴ	上～下	うどんこ病 灰色かび病 ハダニ類 アブラムシ類 アザミウマ類 (ミカン、ヒラスアザミウマ)	アフエットフロアブル アフエットフロアブル スターマイトフロアブル ウララDF ディアナSC	2,000倍 2,000倍 2,000倍 2,000倍 2,500倍	前日-3 前日-3 前日-2 前日-2 前日-2	硫黄くん煙剤も可。 カネマイトフロアブル1000倍(前日-1)も可 ベストガード水溶剤2000倍(前日-3)も可 スピノエース顆粒水和剤5000倍 (前日-2)も可
トマト (促成) (半促成)	上～下	灰色かび病 斑点病・輪紋病 葉かび病 ハモグリバエ類 アブラムシ類及び コナジラミ類(黄化 葉巻病)	アミスター20フロアブル ロブラール水和剤 ダコニール1000 ディアナSC ウララDF 又は コルト顆粒水和剤	2,000倍 1,000倍 1,000倍 2,500倍 2,000倍 4,000倍	前日-4 前日-3 前日-4 前日-2 前日-3 前日-3	ジャストミート顆粒水和剤2000倍も可。 ダコニールはすすかび病にも有効。 プレバソンフロアブル1000倍(前日-3)も可。
キュウリ (促成)	上～下	うどんこ病 灰色かび病 斑点細菌病 べと病・炭疽病 菌核病 アブラムシ類 ハダニ類	スコア顆粒水和剤 スミレックス水和剤 キノドーフロアブル ダコニール1000 スミブレンド水和剤 ダントツ水溶剤 カネマイトフロアブル	2,000倍 1,000倍 1,200倍 1,000倍 1,500倍 2,000倍 1,000倍	前日-3 前日-6 前日-5 前日-12 前日-5 前日-3 前日-1	モレスタン水和剤2000倍(前日-3)も可。 常温煙霧での使用も可能。 カップパーシン水和剤1000倍も可。 コロマイト乳剤1000倍(前日-2)も可。
レタス	上～下	腐敗病 灰色かび病 及び 菌核病	カップパーシン水和剤 アフエットフロアブル スミレックス水和剤	1,000倍 2,000倍 1,000倍	7日-4 前日-3 7日-5	
タマネギ	上～下	腐敗病 灰色腐敗病 ネギアザミウマ	バリダシン液剤5 オンリーワンフロアブル コルト顆粒水和剤	500倍 1,000倍 2,000倍	3日-5 前日-3 前日-3	アフエットフロアブル2000倍(前日-4)も可。 ディアナSC2500倍(前日-2)も可。

*使用前には、ラベルをよく読み、登録内容に沿って使用してください。